



プールが大のお気に入り

錦町 小湊文江さん 36歳

10月で3歳になった麻由は、人見知り激しく、初対面の人にはなかなか「いい笑顔」ができません。その反面、家では元気一杯。3歳上のお姉ちゃんに負けじと、お手伝いしたり、ソファの上に乗っては歌ったり、踊ったり、いつも満点の笑顔です。砂遊び、お人形、しゃぼん玉、大好きな物がどんどん増えているこのごろ、特にお気に入りののがお庭のプール。自分から水着に着替えて大はしゃぎです。昨年の夏は、水を怖がってプールに入りたがらなかったのを思うと、日々少しずつだけど、たくましく成長しているのだなあと実感します。ある日、思いがけずにすんなり、いい笑顔で「こんにちわ」できる日が来るんだろうなと思えるこのごろです。



姉の菜央ちゃん(右)と妹の麻由ちゃん(3歳)

マイカーデコ ガーデニングで気分転換!

10数年前、山野草や菊などの栽培を始めました。ガーデニングがブームになる前のことです。土づくりをし、種をまいて花を咲かせるところまで育てることを原則に、今日まで試行錯誤を繰り返してきました。



花の種類も、「パンジー」「ガーベラ」「金魚草」「サフィニア」「ペコニア」と年々増えて、現在では1年を通して花を楽しめるようになっています。ガーデニングでは、土づくりや土の処分などに一番苦労しています。



大字三和の小田幸子さん

いらいらしたときは、庭の花を見ると気持ちが落ちつきまし、病気になった時などは、花によって随分いやされました。

花をきっかけに、新しい友達もたくさんできました。人々に喜びをもたらしてくれるガーデニング。これからも続けていきたいと思っています。

KOGA 万華鏡

申年を前に

12月ともなると、そろそろ来年の年賀状も気になります。近ごろは自分でデザインする人も多く、どんな図柄がよいものかと思案をめぐらせて、大みそかを迎えてしまいう人もいます。もちろんそうかと思つと、もう決めている人もいます。う。「やつぱり年賀状は干支だよなあ。」なんて。

ところで、来年は申年。

「さるかに合戦」のように猿は意地悪であるとか、「さる」は「去る」に通じるからとか、いって嫌がることもありますが、「xun」もいろいろ。神様の使いとしての役割を果たす猿、猿そのものが信仰の対象であることもあるのです。

古河の絵馬師鈴木忠蔵は、昭和15年(1940)にまとめた『常武両毛絵馬図集』で、藤岡町の庚申様に奉納する絵馬として、猿の絵を紹介しています。庚申様とは、もともと60日に一度やってくる庚申の晩に、



鈴木忠蔵筆『常武両毛絵馬図集』より「猿」

寝ている人の体から三戸(さんし)という虫が抜け出して、天帝に罪を告げるといふ、中国の道教の考えからきたものです。罪を告げられた人は命を落とすといふので、眠らずに庚申の神をお祭りしたのでした。これを祭った石仏は、藤岡町に限ったことではなく、古河でも市内各所にあり、それぞれ病氣回復の祈願や、豊作祈願の対象とされています。

民俗学では、日本の庚申をめぐると、一年の節目を象徴するもので、これがあらわれることによって災厄を避けることができる」とし、その物忌みとして夜明けかしをしたと説いています。庚申には世の中のあらゆるシステムを「更新」する力があると考えられていたのです。前年の悪しきことは忘れ「去り」、新たな年へ「更新」することができれば、これは申年に限った話ではないのですが。

古河歴史博物館学芸員 立石尚之